

博物館・美術館等保存担当学芸員研修(ホ08)

1. 博物館・美術館等保存担当学芸員研修

日程：2016(平成28)年7月11日(月)～22日(金)

参加者数：32名

資料の「保存」は博物館や美術館といった文化財施設に課せられた大きな使命であるが、これは単に「保管」することではなく、資料の「文化財」としての価値が環境要因に起因する物理的、化学的変化によって損なわれることを防ぎ、後世に伝えることである。従って、「保存」は極めて自然科学的な行為であるが、それにも関わらず保存を担当する学芸員がそのための専門知識や技術を学ぶ機会は極めて乏しい。そのため、東京文化財研究所では、1984(昭和59)年以来毎年、資料保存を担当する学芸員などを対象とした「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を実施し、現場で自らの手で保存環境を把握し、必要な改善を行うことの出来る人材を育成してきた。これまでの修了生は800名近くとなり、各地で資料保存の重責を担っている。2016(平成28)年度は、33回目となる本研修を2週間実施した。

(講師の所属に記載のない場合は東京文化財研究所)

7月11日(月)

岡田健「文化財保存 概論」

早川泰弘「保存環境 各論－文化財の材質・構造－」

宇田川滋正(文化庁)「－文化財公開施設の設計－」

7月12日(火)

吉田直人「保存環境 各論－温湿度－」

佐藤嘉則「生物被害 概論」

吉田直人「保存環境 各論－空気環境－」

7月13日(水)

小峰幸夫「生物被害 各論－虫－」

佐藤嘉則「生物被害 各論－カビ－」

犬塚将英「文化財の科学調査」

佐藤嘉則・小峰幸夫「生物対策実習」

7月14日(木)

山口孝子(東京都写真美術館)「劣化と保存 各論－写真－」

森井順之「文化財施設の防災」

朽津信明「屋外資料の保存環境」

吉田直人「保存環境 各論－光・照明－」

7月15日(金)

北河大二郎「劣化と保存 各論－近代文化財－」

ケーススタディ テーマ打ち合わせ

7月19日(火)

「環境調査実習－ケーススタディー－」(於：神奈川県立歴史博物館)

7月20日(水)

吉田直人「展示照明の今後」

早川典子「劣化と保存 各論－修復材料－」

岡田健「防災のための体制づくり」

7月21日(木)

坂本雅美(紙本保存修復家)「劣化と保存 各論－紙資料－」

山本記子(国宝修理装演師連盟)「劣化と保存 各論－日本画－」

ケーススタディ発表

7月22日(金)

木島隆康(東京藝術大学)「劣化と保存 各論—油彩画—」

吉田直人「東文研が行う環境調査・助言」

2. 保存担当学芸員フォローアップ研修—水俣条約による水銀規制と展示照明等への影響—

1984(昭和59)年に始められた「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」受講者はそれぞれの施設で、また、地域の中核的存在として資料保存の重責を担っている。しかし、保存に関する知識や技術は日々新しくなる。本研修は、資料保存に必要な最新の知識を持てるように行うものである。

白色LEDの色温度バリエーションや演色性が向上し、展示照明に耐えるレベルのものが増えてきた。一方で、これらの性能が同等にも関わらず、既存光源での見え方とは異なるケースも見受けられる。本研修では、人工光源の種々の特性と視認性との関係に関する基礎と最新情報、また白色LEDの特性を活かした展示空間デザインについて取り上げた。

日 程：2016(平成28)年6月16日(木) 13:30～17:15

参加者：103名

プログラム：吉田直人「趣旨説明・展示照明用LEDの開発状況」

吉澤望(東京理科大学理工学部)「照明光と色彩知覚に関する基礎」

溝上陽子(千葉大学大学院融合科学研究科)「照明の演色性評価指標に関する基礎知識と最新の動向」

木下史青(東京国立博物館)「LEDを用いた展示空間のデザイン」

文化財の収集、保管に関する指導助言(シ)

平成28年度は以下の組織等において指導助言を行った(21件)。

- ・文化庁買取評価員
- ・文化庁国有文化財等(美術工芸品)保存修理事業協力者会議 協力者
- ・文化庁文化審議会専門委員
- ・迎賓館の改修に関する懇談会委員
- ・東京国立博物館 修理請負候補者選定委員会委員
- ・東京国立近代美術館 海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業 実行委員会
- ・京都国立近代美術館企画競争審査委員会(美術系図書)の書誌情報遡及入力業務)
- ・秋田県立美術館アドバイザー会議委員
- ・東京都美術館運営委員会委員
- ・江戸東京博物館作品収蔵委員会委員
- ・静岡県立美術館専門委員
- ・高知県立歴史民俗資料館 資料調査
- ・秋田市千秋美術館協議会美術作品等評価審査委員会委員
- ・松戸市戸定歴史館 佐竹永湖にかかわる展覧会の文化財調査
- ・豊島区文化デザイン課美術品活用委員
- ・横須賀市美術館美術品選定評議委員
- ・近江八幡市文化観光課 市指定文化財 木造釈迦如来立像の修理事業
- ・八尾市教育委員会 八尾市史編纂委員会
- ・大分市美術館美術品収集委員会委員
- ・大和文華館 展覧会にかかわる文化財調査
- ・南蛮文化館 保管にかかわる文化財調査

無形文化遺産に関する助言(ム)

- 無形文化遺産の保存・伝承・活用に関する各種委員会等へ出席し、以下の指導・助言を実施した。
- ・文化庁への助言（文化財保存技術に関する調査 2/6・7・8・17 東京都台東区・墨田区・中央区、2/9 京都市東山区、2/10・13 愛知県名古屋市）
 - ・文化庁への助言（国際芸術交流支援事業協力者会議審査委員会 3/8 文化庁）
 - ・文化庁への助言（無形文化遺産特別委員会作業部会 10/21・12/8・1/17 文化庁）
 - ・東京都武蔵野市への助言（武蔵野市文化財保護委員会 7/12・9/6・12/6・2/14 武蔵野公会堂・武蔵野ふるさと歴史館）
 - ・岐阜県岐阜市への助言（岐阜市鶺鴒観光船事業のあり方検討委員会 5/26・10/20・1/10 岐阜市役所）
 - ・岐阜県岐阜市への助言（岐阜市長良川鶺鴒い習俗総合調査専門委員会 8/17 岐阜市歴史博物館）
 - ・岐阜県関市への助言（関市小瀬鶺鴒習俗総合調査専門委員会 8/16 関市武芸川事務所）
 - ・岐阜県岐阜市・関市への助言（長良・小瀬鶺鴒習俗総合調査合同委員会 1/31 岐阜市役所）
 - ・国際交流基金（舞台芸術専門家会議 7/19 国際交流基金）
 - ・日本芸術伝統振興会への助言（民俗芸能公演及び琉球芸能公演専門委員会 9/24・25・1/21・22・3/5・3/23 国立劇場）
 - ・東京都歴史文化財団への助言（第48回東京都民俗芸能大会 3/18・19 東京芸術劇場）
 - ・一般財団法人日本青年館への助言（第65回全国民俗芸能大会企画委員会 4/13・9/5・11/26・1/24・3/1 日本青年館事務局・国立オリンピック記念青少年総合センター）

文化財の虫菌害に関する調査・助言(ホ)

これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献した（佐藤嘉則、小峰幸夫）。

主な虫菌害問題の相談元は、国や地方公共団体の博物館、美術館、図書館、教育委員会や社寺等の文化財保存担当あるいは文化財修復関係機関等であった。対応件数は、合計で41件あり、内18件については派遣依頼等を受けて現地にて調査をしたもの、あるいは研究所にて試験等を実施したものなど、より詳細な解析が必要な事案であった。

虫菌害の相談内容は、保存公開施設内における文化財害虫の発生、カビの大規模発生など一般的な虫菌害被害のみならず、屋外の装飾古墳の彩色面に発生した植物根の対処や建造物のげっ歯類による加害対処など多岐にわたった。被害の規模も文化財展示収蔵施設全体に関する事柄から、個別の作品に対する事柄まで多様であった。また、2016（平成28）年4月に発生した熊本地震による被災文化財等のカビ被害に対する初期対応など緊急性を伴う事案も含まれた。

生物被害の傾向としては、2016（平成28）年は秋の長雨によりカビの被害事例が例年より多く見受けられ、空調設備が不十分な博物館、美術館、図書館などで被害が起きていた。相談案件の中には、基礎的な知識や対策があれば未然に防ぐことが出来たであろう事例も多く含まれていたことから、文化財の生物被害対策に関する基礎的な知識の習得と対策の実践を織り込んだポスター制作などを通して、文化財の生物被害に対する普及・啓発活動を強化する必要がある。

国指定品の収蔵、展示を予定する52館を対象とした環境調査を行い、計53通の報告書を作成した。

文化財の修復及び整備に関する調査・助言(ホ)

目的 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

成果

1. 2016（平成28年）度実施した各地の国宝、史跡や重要文化財等の保存や修復に関する指導助言は以下のとおりである。

国宝高松塚古墳壁画、特別史跡キトラ古墳壁画、国宝白杵磨崖仏、国宝銅造阿弥陀如来坐像（鎌倉大仏）、国宝平等院鳳凰堂、国宝二条城障壁画、国宝円覚寺洪鐘、史跡屋形古墳群、史跡日岡古墳、史跡楠明重定古墳、史跡塚花塚古墳、史跡竹原古墳、重要文化財通潤橋、史跡石人山古墳、史跡薬師堂石仏、史跡観音堂石仏、史跡日野江城、史跡清戸迫横穴、重要文化財羅漢寺石仏、史跡下馬場古墳、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡足尾銅山、史跡葦山反射炉、史跡萩反射炉、史跡高島炭坑跡、史跡原爆ドーム、史跡桜京古墳、重要文化財菅尾磨崖仏、重要文化財末広橋梁、重要文化財巖島神社大鳥居、重要文化財岩水寺所蔵木造地藏菩薩像像内経、重要文化財伏見稻荷大社御茶室障壁画、重要文化財旧鶴岡警察署、重要文化財旧弘前偕行社、重要文化財泉穴師神社、重要文化財琉球芸術調査写真附調査記録、重要文化財近代教科書関係資料、名勝錦帯橋、興福寺油污損文化財、熊本県内被災古墳。

2. 地方自治体指定その他の文化財の保存と修復に関する指導助言は以下のとおりである。

絵金屏風、大山崎町宝積寺石造塔、小豆島町石造文化財、白杵市銅造普賢菩薩坐像、白杵市内キリシタン遺跡、横浜市田谷の洞窟、町田市西谷戸横穴墓群、日本航空協会所蔵「飛燕」、四国村所蔵「夏目漱石直筆絵はがき」、登録有形文化財奥津発電所調整池、関市若栗橋、日本郵船所有「氷川丸」、横浜市「日本丸」、根津美術館蔵石造浮屠、慶応義塾大学蔵計算機、三原市磨崖和霊石地藏、真鶴町指定有形文化財如来寺石仏群、富山市大山恐竜足跡化石群、岡崎市観音寺所蔵熊毛兜。

研究組織 ○朽津信明、北河大次郎、早川典子、森井順之、岡田健、早川泰弘（以上、保存科学研究センター）、中山俊介、加藤雅人（以上、文化遺産国際協力センター）

文化財の材質・構造に関する調査・助言(ホ)

目的 様々な文化財資料について、その材質や構造を明らかにするために、科学的調査を実施する。可搬型の機器を用いて、文化財資料が置かれている場所での現地調査も実施する。

成果 ○材質調査

- ・日本画（岡田美術館、2016（平成28）年4月）
- ・仏像断片（文化庁、2016（平成28）年7月）
- ・彫像等（学習院大学、2016（平成28）年8月）
- ・絵画（東京大学、2016（平成28）年8月）
- ・仏像（深大寺、2016（平成28）年9月）
- ・扉板絵（平等院、2016（平成28）年9月）
- ・漆工品（石川県立美術館、2017（平成29）年2月）

- ・仏像（恵明寺、2017（平成29）年2月）
- ・絵図（江川文庫、2017（平成29）年2月）
- ・絵画（國學院大學、2017（平成29）年3月）

○構造調査

- ・陶磁器（ドレスデン国立美術館、2016（平成28）年5月）
- ・絵画（東京大学、2016（平成28）年8月）
- ・出土遺物（明治大学、2016（平成28）年8月）
- ・剥製標本（国立科学博物館、2016（平成28）年10月）
- ・漆工品（サントリー美術館、2017（平成29）年2月）

以上、調査・助言件数 15件

研究組織 ○犬塚将英、早川泰弘（以上、保存科学研究センター）

保存科学研究センター

2-(5)-②-1)

美術館・博物館等の環境調査と援助・助言（ホ）

国指定品の収蔵、展示を予定する49館を対象とした環境調査を行い、計50通の報告書を作成した。

東京都美術館、公益財団法人ひろしま美術館、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館、新潟市美術館、たばこと塩の博物館、松戸市立博物館、海の道むなかた館、堺市博物館、長浜市長浜城歴史博物館、佐川美術館、名古屋市美術館、豊田市美術館、樂美術館、群馬県立歴史博物館、日野市立新撰組のふるさと歴史館、安芸高田市歴史民俗博物館、静岡市教育委員会、印刷博物館、公益財団法人馬事文化財団、沖縄県立博物館・美術館、公益財団法人日本習字教育財団観峰館、神奈川県立金沢文庫、苫小牧市美術博物館、広島県立歴史博物館、公益財団法人泉屋博古館、公益財団法人福山市かなべ文化振興会菅茶山記念館、公益財団法人松伯美術館、北海道立帯広美術館、八幡市立松花堂庭園・美術館、大分市歴史資料館、長崎歴史文化博物館、下関市立歴史博物館、久留米市美術館、國學院大學博物館、鹿児島県歴史資料センター黎明館、京都府立京都学・歴彩館、吹田市立博物館、高志の国文学館、京都国立近代美術館、富山県水墨美術館、大阪市立美術館、安城市歴史博物館、足利市立美術館、東京都写真美術館、宮崎県立美術館、泉屋博古館分館、MOA美術館、宇和島市立伊達博物館、八代市立博物館未来の森ミュージアム

また、全国の博物館、美術館、社寺、その他文化財収蔵施設の保存環境、及び新築・施設改修・増築などの相談に対して助言を行い、必要に応じた現地調査なども適宜行った。

保存環境に関する相談件数 627件

東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進(ホ)

目的 1995(平成7)年4月より東京藝術大学と連携してシステム保存学コースを開設し、21世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と、保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の2講座から成る。6名の所員が連携教員として授業を開講している。

成果 ○今年度開講した授業及び担当教員、受講者数

保存環境計画論(前期、火曜1限)	2単位	佐野千絵・吉田直人・佐藤嘉則	19名
修復計画論(前期、木曜1限)	2単位	岡田健・朽津信明	7名
修復材料学特論(前期、木曜2限)	2単位	岡田健・早川典子	7名
保存環境学特論(後期、火曜1限)	2単位	吉田直人・佐藤嘉則	6名

文化財保存学演習

テーマ「文化財と光の色んな関係ー見る・守る・調べるー」、講師：吉田直人
日時：2016(平成28)年6月14日(火)13～17時



講義風景

○修士学生指導

英語論文輪講(前期、水曜3限) 2単位 システム保存学修士1年生対象

担当教員 佐野千絵・早川典子

修士論文指導 随時 担当教員 佐野千絵・早川典子 システム保存学修士1年生対象

○入学試験

平成28年度東京藝術大学大学院美術研究科博士課程(前期・後期) 受験者がなく実施せず。

○成績評価等、文化財保存学専攻運営への協力

教室会議参加(10回)、入試合同判定会議(2回)、博士・修士審査会への協力(5回)

研究組織 ○佐野千絵(文化財情報資料部)、岡田健、朽津信明、吉田直人、早川典子、佐藤嘉則(保存科学研究センター)